

2025年度 恵 愛 会 事業報告

1. はじめに

2025 年度は恵愛会創立 80 周年を迎える節目の年として、法人理念に立ち返り「事業・地域・職員のつながり」をテーマに取り組んだ。事業のつながりでは、前年度までの取り組みを踏襲し、地域包括医療病棟・地域包括ケア病棟での高齢者の初期・中等症患者の受入れ、年々増加する高齢者の整形疾患に対応できる整形外科の診療機能の充実を重点項目として掲げ、将来にわたり高齢者医療を支えられるよう、病院機能や環境・体制を整備した。地域とのつながりでは、従来の医療機関との連携に加え、在宅や介護福祉施設、健診機関との連携の強化を図った。その結果、介護福祉施設や救急車による入院受入は年々増加傾向にある。また、健診要精密者の紹介件数は前年より 139 件増加した。また、新たな取り組みとして、障がい者施設と連携し院内での販売会を年 12 回開催、2 月には吉原商店街と連携し病院フェスティバルを開催するなど、積極的に地域との交流を図った。職員同士のつながりでは、職種を超えたタスクシフト・シェアなど多職種連携範囲の拡大、福利厚生の一環としたキッチンカーの招致では 24 店舗にご協力いただき、年 44 回開催することができた。また、新たな情報発信ツールとして職員参加型の SNS（Instagram）を開始し、多くの職員の参画により運営を継続することができた。

2026 年度は新たな中期計画が始まる初年度である。“事業の伸化”、“地域とのつながりの深化”、そして、“将来を見据えデジタル技術を活用した業務プロセスへの新化”をテーマに掲げ、法人一丸となって取り組んでいく。これからも 80 年の想いを未来へつなぐため、どのような時代でも地域から信頼され、貢献できる法人としてあり続けられるよう、経営・運営の安定化を図っていきたい。

※各事業別の主な経営成績は以下の通りである。

(千円)

項 目	予 算	実 績	対予算
医業収益	4,781,853	4,578,231	95.7 %
病 院	4,593,909	4,408,380	96.0 %
在 宅	187,944	169,851	90.4 %
医業費用	4,760,265	4,722,262	99.2 %
病 院	4,612,807	4,572,790	99.1 %
在 宅	147,458	149,472	101.4 %
経常利益	58,341	20,248	34.7 %
病 院	17,615	-1,314	-7.5 %
在 宅	40,726	21,562	52.9 %
当期純利益	58,461	20,712	35.4 %
病 院	17,735	-850	-4.8 %
在 宅	40,726	21,562	52.9 %

2. 聖隷富士病院

2025 年度も “高齢者医療を支える病院機能の向上” をテーマに、「地域包括医療病棟の安定稼働」と「整形外科の診療機能の充実」に継続して取り組んだ。地域包括医療病棟では、時間内救急の受入れや地域の在宅事業所・介護福祉施設との連携を進め、高齢者の初期・中等症の救急受入に対応した。また、薬剤師の病棟常駐や土日リハビリテーションの充実、リハビリ栄養口腔連携体制加算の取得など、多職種が連携して高齢者を支える体制を強化した。整形外科では、膝や股関節の痛みを抱える高齢者の増加に対応すべく、4 月に人工関節センターを開設し、手術前後のリハビリテーションや在宅復帰支援などチーム医療を推進した。また、増加する手術へ対応するため麻酔科医師体制の拡充、手術機器の整備を図った。常勤医師が不在となり課題であった透析診療においては、新たな常勤医師の着任により、入院受入やシャント造設・PTA 治療を再開することができた。また、透析患者へのフットケアやリハビリの提供、栄養管理・指導など多職種によるチーム医療にも力を入れ、透析センター機能の充実を図った。その他、聖隷富士健診センターや地域の健診機関からの要精密者の病院受診の受入れ、警察依頼の Ai への対応など地域ニーズに応えられるよう努めた。8 月に介助浴槽の更新を目的にクラウドファンディングを実施した際には、利用者や地域企業など多くの方からご支援をいただき、地域からの期待の大きさを改めて実感した。

2026 年度も地域課題である “高齢者医療を支える病院” として、「地域から信頼され必要とされる地域包括医療・ケア病棟の運営」、「整形外科の診療機能の充実」、「各部門の専門性の向上とチーム医療の推進」など、これまでの取り組みを伸化・深化させていく。また、将来を見据え、デジタル技術を活用した時間短縮・業務効率化の推進、多職種間の連携や応援体制の拡大など、それぞれの専門性が発揮できる環境・体制の構築を図ることで、医療従事者の負荷軽減・定着化を目指していく。

1. 病院機能の整備と地域連携の強化

①病床の効果的な活用

- ・ベッドコントロール体制の維持（3 病棟の施設基準維持）
- ・消防、施設への定期訪問、意見交換（高齢者救急に対応）
- ・整形入院/手術受入体制の整備
- ・介護福祉施設との連携強化
 - ・介護施設・福祉施設利用者の入院 61 名/年（前年 67 名/年）
- ・医療機関との連携強化
 - ・紹介/救急/転院による入院 698 名/年（前年 544 名/年）
- ・人工関節センターの開設（2025 年 4 月）
- ・リハビリ栄養口腔連携体制加算の施設基準取得、術前リハビリの開始

②地域ニーズに応える外来診療体制の構築

- ・健診要精密者の外来受診の連携強化
 - ・健診精密紹介受入数 1,298 件/年（前年 1,106 件/年）
- ・内科午後外来の体制強化（月-金 終日外来体制の構築）
- ・地域の医療機関、クリニックへの定期訪問
 - ・紹介件数 5,255 件/年（前年 4,893 件/年）

③断らない医療の推進（救急体制の整備）

- ・救急車受入件数 661 件/年（前年 642 件/年）
- ・時間内救急応需率 63%（前年 62%）、時間外救急応需率 53%（前年 47%）
- ・平日 8 時～9 時／12 時～14 時の一次救急受入枠を拡大
 - ・当番枠 285 回/年（前年 118 回/年）
- ・消防本部と定期的に意見交換会を開催

④センター機能の充実（手術、内視鏡、放射線、透析）

- ・整形外科手術の拡充
 - ・整形外科手術件数 508 件/年（前年 421 件/年）
 - ・麻酔科非常勤医師体制の拡充
- ・健診内視鏡体制の拡充
 - ・健診内視鏡件数 679 件/年（前年 632 件/年）
- ・CT/MRI 検査機器の有効活用
 - ・CT 検査数 7,504 件/年（前年 6,822 件/年）
 - ・MRI 検査数 3,592 件/年（前年 3,211 件/年）
 - ・外部からの AI（死亡時画像診断）依頼に対する協力
- ・透析診療機能の充実
 - ・シャント造設、PTA 治療の再開、フットケア、透析リハ、栄養管理の充実
 - ・透析実患者数 143.5 名（前年 141.1 名）

⑤安全・感染対策の向上

- ・感染対策マニュアルの電子化、手指衛生の向上
- ・感染対策、医療安全講習会の定期開催
- ・5S 活動の実践、院内巡視の実施

2. 人材育成と職場環境の整備

①人材育成

- ・専門資格の取得、外部研修への参加
- ・聖隷福祉事業団、芙蓉協会との連携（診療支援、職員出向・応援、合同研修）
- ・次世代管理者、リーダーの育成（新規役職登用者 3 名）

②タスクシフトの推進

- ・薬剤師による病棟常駐業務の実践
- ・病院・在宅リハの連携
- ・看護師から看護補助者へのタスクシフト拡大、看護部内応援体制の継続
- ・臨床工学技士によるタスクシェアの強化（透析、内視鏡、手術室）

③健康経営の推進

- ・ストレスチェックの実施（受検率 98%）
- ・職員健診・ドック、特定保健指導、職場巡視、予防接種の実施

④安心して働き続けられる環境の整備

- ・業務プロセスの外部評価（透析部門、老人看護・感染管理）
- ・育児・介護者の両立支援制度の拡充（育児時差出勤・養育両立支援休暇・介護休職期間の延長）

3. 事業継続可能な病院経営

①医師・専門職の採用強化

- ・ 学生実習受入れ（65 名）、学校訪問（12 か所）、合同説明会参加（6 回）
- ・ 医師紹介会社への定期訪問（2 回）
- ・ Instagram を活用した職員募集の開始
- ・ 2025 年度 採用数 31 名
（医師 1 名、看護師 16 名、看護助手 4 名、薬剤師 1 名、管理栄養士 1 名、理学療法士 3 名、作業療法士 1 名、放射線技師 2 名、臨床検査技師 1 名、臨床工学技士 1 名）

②戦略的な広報・営業

- ・ Instagram を活用した情報発信
- ・ クラウドファンディングの実施（2025 年 7 月～8 月：介助浴槽）
- ・ キッチンカーの招致、障がい者施設による院内販売会を企画・運営
- ・ 80 周年記念事業として病院フェスティバル開催

③費用の適切な管理

- ・ 電力会社の変更（2026 年 1 月 東京電力→関西電力）
- ・ 製品切替（N95 マスク、人工関節のガウン、ディスポ吸引器）
- ・ 保守契約見直し

〈病院〉

項 目	予 算	実 績	対予算	対前年
外 来 患 者 数	387 名	380 名	98.2 %	100.3 %
外 来 単 価	23,593 円	23,411 円	99.2 %	99.2 %
入 院 患 者 数	100 名	93 名	93.0 %	98.9 %
入 院 単 価	52,555 円	52,539 円	100.0 %	103.9 %
病 床 稼 働 率	85 %	79 %	92.9 %	98.9 %
職 員 数	277 名	276 名	99.6 %	97.5 %

3. 在宅（訪問看護ステーションけいあい、居宅介護支援事業所けいあい）

団塊の世代が75歳を迎え超高齢化社会へ突入する中、訪問看護師に期待される役割は「回復を目指した看護」から「生活を送る上で支える看護」へ変化している。また、ケアマネジャーにおいては、医療と生活の両面を支え、本人の意思を軸に地域全体を動かす司令塔としての役割がこれまで以上に期待されている。しかし、現場の人手不足や供給不足が社会的に問題となっているように、当事業所でも職員体制の充足には至っておらず、厳しい体制での支援が続いている。2025年度は限られた人員体制の中でも効率よく質を高めることを目指し、記録の電子化などDXを推進し業務改善に努めた。また、最近では医療依存度の高い方が在宅療養に移行するケースが増え、特定行為看護師による専門管理加算の算定可能な利用者が増えている。

今後も、日々の利用者支援に加え、職員がやりがいを感じ、働き続けられる職場環境作りと地域の人々が医療と介護を安心して利用できるよう、職員の採用が最優先課題と考える。

【在宅事業理念】

利用者が住み慣れた地域社会や在宅において、安心して安全に暮らせるよう、地域に根ざした質の高いサービスを提供します。

【2025年度重点施策】

1. 在宅事業の充実
2. 人材育成の推進と、質の高いサービスの提供
3. ICTを活用した労働環境の整備
4. 社会貢献への取り組み

〈訪問看護・居宅〉

項 目	予 算	実 績	対予算	対前年
介護保険 利用回数	595 件	500 件	84.0%	85.9%
医療保険 利用回数	10,000 円	10,178 円	101.1%	99.5%
訪問看護 単価	550 件	593 件	107.8%	105.1%
居宅 利用回数	11,905 円	11,770 円	98.81%	116.9%
居宅 単価	170 件	167 件	98.2%	110.5%

【2025年度の主な行事】

行 事 内 容	実 施 日
新入職員オリエンテーション	4 月 1 日
新人防災研修	4 月 2 日
監事監査	5 月 16 日
理事会	5 月 21 日、 3 月 6 日
中堅研修(年 6 回)	5 月 29 日、7 月 25 日、9 月 3 日、10 月 17 日・18 日、12 月 12 日、3 月 6 日
緊急連絡(安否確認)訓練	6 月 10 日
評議員会	6 月 12 日、1 月 22 日、3 月 19 日
新人研修(年 2 回)	6 月 13 日～14 日、1 月 23 日
すくすく保育園児童育成協会立入調査	6 月 26 日
聖隷福祉事業団監査室関連法人外部監査	7 月 10 日
2 年目研修	7 月 11 日
聖隷富士健康診断センター保健所立入検査	7 月 16 日
クラウドファンディング(5 階病棟介助浴槽)	7 月 1 日～ 8 月 29 日
中堅ステップアップ研修	7 月 23 日
役職者研修	7 月 30 日、 3 月 25 日
ストレスチェック	7 月 28 日～ 8 月 15 日
勤務意向調査・職員満足度調査	8 月 5 日～29 日
すくすく保育園静岡県福祉指導課立入検査	8 月 19 日
ハラスメント研修	9 月 1 日～30 日
総合防災訓練	9 月 18 日
接遇・マナー研修	10 月 1 日～31 日
腰痛予防講座	10 月 1 日～31 日
税務調査	10 月 2 日・ 3 日・ 8 日
院内感染対策研修(年 2 回)	10 月 6 日～11 月 10 日、3 月 2 日～31 日
聖隷福祉事業団施設基準内部監査	10 月 23 日
第 22 回院内学会	10 月 25 日
患者満足度調査(透析・入院)	11 月 1 日～30 日
患者満足度調査(外来)	11 月 10 日・13 日
保健所立入検査(食品項目)	11 月 11 日
保健所立入検査・消防立入検査	11 月 12 日
保健所立入検査(放射線部門)	11 月 19 日
安全運転講習会	12 月 8 日～25 日
2 次性骨折予防管理料に係る研修	12 月 15 日～ 1 月 31 日
医療安全研修(年 2 回)	12 月 19 日、3 月 5 日～30 日
防災委員会講習会 (消火器・消火栓使用方法、災害時の役割、時間外 火災発生時対応)	1 月 1 日～ 1 月 31 日 2 月 3 日～ 2 月 23 日 3 月 19 日～ 3 月 31 日
医療ガス保安講習	2 月 2 日～20 日
倫理研修・個人情報保護研修	2 月 5 日～ 3 月 13 日
聖隷富士病院 80th フェスティバル	2 月 8 日
聖隷富士健診センター人間ドック学会機能評価審査	2 月 18 日
夜間火災訓練	2 月 19 日
臨床 MRI 安全運用のための講習会	3 月 4 日～31 日

※キッチンカー・出張販売(24 店舗)・・・44 回、 障害者施設販売会(10 社)・・・毎月 1 回(計 12 回)